



Title	図書館スタッフによる学修支援の実践、および事後評価 : 「プレゼン入門 : 話す基本技術」
Author(s)	久保山, 健; 堀, 一成; 坂尻, 彰宏
Citation	
Version Type	AM
URL	https://hdl.handle.net/11094/36154
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

図書館スタッフによる学修支援の実践、および事後評価

～「プレゼン入門：話す基本技術」～

久保山 健（大阪大学 附属図書館）

堀 一成・坂尻 彰宏*（大阪大学 全学教育推進機構） *非会員

1. はじめに

本報告では、授業外の学修支援企画「プレゼン入門：話す基本技術」（以下、プレゼン入門）の内容を概観し、過去の受講者を対象とした事後評価アンケートの結果を紹介する。大阪大学では図書館スタッフと教員が協力し、授業外の学修支援企画として2010年度から「レポートの書き方講座」などを実施してきた。2011年度からは図書館スタッフである第1筆者が中心となって「プレゼン入門」を追加した。主な目的は本学の学修支援の充実、人前で分かりやすく話すための学修機会の提供である。

2. 内容、実施時期、参加者数

「プレゼン入門」は授業外の講習会である。当初は全2回で実施した。1回目は、パラグラフやスピーチの基本構成の解説を行い、その内容を1分間スピーチで実践する。2回目は、導入や結び、つなぎの言葉、声やアイコンタクトの解説を行い、再び1分間スピーチで実践する。まず「型」を意識してもらうことを心がけた。多くを休業期に開催した。各回の受講者数の平均は7～8名である。

講習の効果を高めるため次のようなことに配慮した。解説と実習を交互に行う構成、実習を相対的に長く、受講者同士の相互評価などである。スピーチ実習も、受講者が実践の際に配慮すべき点を徐々に増やした。発表者が立つ場所も、2回目以降はより人前感を出すようにした。

2012年9月から追加した発展編では、人前で話すことのひとつとして司会の解説・練習、アイデアの整理のためのブレインストーミングの解説・練習、1分間スピーチ、そのビデオ撮影などを行った。

各回のアンケートでは非常に高い有用度評価が得られている。受講者からは「学んだのちに出力できたのがよかった」「型を意識するだけでも、話の筋が分かりやすくなることが分かった」との回答があった(2014年2-3月。回答は一部要約)。時期や回数は以下にまとめた。2012年9月実施までの内容や、実施背景などは、参考文献(1)を参照されたい。

時期	回数	実人数(のべ)	有用度評価(*)	
2012. 2	基本編 2回×4グループ	31 (58)	4.50	
2012. 9	基本編 2回×2+発展編 1回×1	15 (33)	4.56	発展編追加
2013. 2-3	基本編 2回×6+発展編 1回×2	40 (80)	4.64	複数地区で開催
2013. 5	基本編 2回×1+発展編 2回×1	17 (35)	4.68	授業期に開催、 発展編 2回化
2013. 9	基本編 2回×2+発展編 2回×1	15 (48)	4.79	
2014. 2-3	基本編 2回×6+発展編 2回×2	43 (120)	4.62	※事後評価の対象外

(*) 5(非常に有益)～3(普通)～1(役に立たない)、各時期ごとの平均値

3. 事後アンケート

各回でのアンケートでは「プレゼン入門」は有用度評価を得ているが、事後に役立ったのか、受講者は何が身に付けられたのかなどを評価し、改善のヒントを得るために、事後アンケートを行った。

2014年1月半ばの2週間、及び2月下旬からの2週間に実施した。2013年9月までの受講者にメールで依頼。111名(不達メールは除外)の内、29名から回答があった。回答率は26%である。以下、

概略のみ掲載する。なお、質問項目は、参考文献(2)(3)を参考にさせていただいた。

(1) 苦手意識の克服 (平均=4.2)

(1) 講習は苦手意識の克服に役立ったと思いますか。		
5)大いにそう思う	10	34%
4)	16	55%
3)どちらともいえない	3	10%
2)	0	0%
1)全くそう思わない	0	0%

(2) 上達したと思うか (平均=3.9)

(2) 講習をきっかけにスピーチが上達したと思いますか。		
5)大いにそう思う	3	10%
4)	21	72%
3)どちらともいえない	5	17%
2)	0	0%
1)全くそう思わない	0	0%

(3) スピーチに対する自信の変化： 受講前=2.2 → 受講後=3.7 (回答者の平均値)

受講前の自信と、受講をきっかけに自信がどうなったか質問した(3=どちらでもないとした5段階)。

(4) どの程度役に立ったか： 4.0 (回答者の平均値) (5=5名、4=20名、3=3名、2=1名)

講習はどの程度役に立ったか質問した(3=どちらでもないとした5段階)。

(5) どの場面で役に立ったか (多肢選択式、複数回答可。(6)(7)も同じ。)

「授業での発表」(20名)が飛び抜けているのは学生の活動として必然だろうが、「レポートや論文作成」(9名)が2位だった。内8名が発展編でブレインストーミングを経験しているので、その成果かもしれない。3位は、「サークルでの発表」「就活での面接など」(7名)だった。

(6) 受講をきっかけに、よくなったこと： 「構成を意識して話す」(24名)が1位。

(7) 解説や実習の中で、役に立ったと思うもの

まず、「講師の解説」(21名)、「講師のコメント」(20名)、「自分の1分間スピーチ」(18名)が上位になり、講師の指導と受講者自身の実践経験が高く評価されている。次に、「他の受講者の1分間スピーチ」(17名)、「他の受講者のコメント」(16名)があげられており、他の受講者の実技やコメントも同様に有用であったと見なされている。

一方、「司会の解説」(9名)も、発展編を受講した回答者17名の半数強と比較的多い。しかし、役立った場面として司会をあげた回答者は2名のみであった。受講者が講習後に司会をする機会は少なかったと推測できる。

(8) 事後アンケート時点での総合的な有用度評価： 4.1 (回答者の平均値)

受講から約4ヶ月～2年後の調査であるが、高い評価を得た(各回アンケートと同じ5段階評価)。

4. まとめと課題

事後アンケートでも「プレゼン入門」の有用度はある程度確認された。その背景としては、積極的な参加者、分かりやすく話すための「型」を学ぶ機会の少なさ、参加者の相互交流などがあるだろう。

一方、本学では2013年6月に教育学習支援センターが発足した。関係者との横の連携を深めつつ、情報を共有していきたい。そして、図書館スタッフも関わりながら、本学の学修支援を充実させていきたい。

(1)久保山健. 図書館スタッフによる学習支援の実践：「プレゼン入門 話す基本技術」. 大阪大学高等教育研究. Vol.1. 2013. p.77-83

(2)藤木 美奈子, 前川 志津, 勝又 恵理子. スピーチに対する自信は何によってもたらされるか：授業内容との関係から(II. 基盤教育院における実践). Obirin today：教育の現場から. 10. 2010. p.49-64

(3)藤木 美奈子. 初年次教育におけるスピーチの実践授業を通して－その意義と成果. 大学教育学会第35回大会 発表要旨集録. 2013. 6. p.132-133